

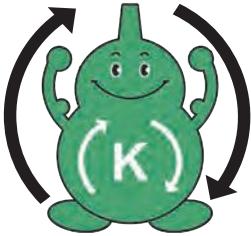
ごみジャーナル

No.55

発行/ごみ問題を考える草津市民会議 編集/広報委員会

所在地:草津市馬場町1200番地25(草津市立クリーンセンター内)

TEL:077-562-6361 FAX:077-566-1694 メール:shigen@city.kusatsu.lg.jp



クルリーナちゃん
(ごみ問題を考える草津市民会議の
キャラクター)

令和7年10月12日

エコライフ フェア草津 2025を開催!

リユースマーケット



掘り出し物は見つかるかな?

牛乳パックを使った工作



ヨーヨーや舟を作りました!

ごみの分別ゲーム



ごみの分別について楽しく学べました!

桜の木・リサイクル材を使った工作



木のぬくもりが感じられます♪

おもちゃの0円マーケット



楽しそうなおもちゃがたくさん♪

ブックトレード(本の交換会)



新しい本との出会いがありました!

リユース家具抽選会



使えるのに捨てるのはもったいない!

草津市メルカリShops

クリーンセンターに搬入された「まだ使える状態の良い」粗大ごみ等は、ごみの減量や循環型社会の推進、環境負荷の低減を図るため、順次フリマアプリ「メルカリ」へ出品中!

市ホームページ▶



段ボールコンポスト販売



生ごみを減らして利活用しよう!

風呂敷活用講座

風呂敷は
エコバッグやリュックサックにもなるんです!

各種回収ブース

フードドライバや
リチウムイオン電池等を回収しました!

リチウムイオン電池 の出し方



リチウムイオン電池はモバイルバッテリーやハンディファンなど、身の回りの様々なものに使用されており、ごみとして出す際は注意が必要です。

一般社団法人JBRCでの回収の可否や、膨張の有無などにより回収先が異なります。

市ホームページ▶



ごみ問題を考える草津市民会議顕彰

当市民会議では、毎年、ごみ問題解決のための啓発や実践活動に御尽力された方を顕彰しています。令和7年度は、びわ湖まもり隊様、川口まり子様、藤井吉久様、野路美化安全会様、鈴木節男様、田村孝博様を顕彰させていただきました。

老上西学区 びわ湖まもり隊様

「地域の環境は、自分で守ろう！」を合言葉に、令和5年4月以降、毎月1回、矢橋帰帆島と中間水路湖岸の清掃活動に取り組まれています。清掃活動を通して、地域住民の地域コミュニティ活動への参加意欲が醸成されています。



玉川学区 川口まり子様

25年以上前から、野路小林児童公園の掃除、公園前通学路の道路清掃などの奉仕活動に取り組まれています。長年にわたり、南草津駅前のこどもたちの通学路にごみや落ち葉が散らからないよう日々尽力されています。



玉川学区 藤井吉久様

「桜プロジェクト我ら活動隊」の代表として、会員32名を率いて環境美化・保護活動に尽力されています。2003年の団体設立以来、環境美化・保護活動、小中学生の環境学習支援、町内会支援を中心に、様々な活動を展開されています。



玉川学区 野路美化安全会様

老若男女を問わず、多くの住民が参加できる体制を整え、環境美化活動に尽力されています。地域の環境美化団体の中心的存在として、溝の泥上げ、河川・避難通路・公園の除草作業のほか、町民からの困りごと解決など、活動は多岐にわたります。



老上学区 鈴木節男様・田村孝博様

狼川堤防の草刈りを継続して実施されており、地域の安全と美観向上に尽力されています。お二人の継続的な取組により、堤防の視界不良や害虫の発生が防止され、地域住民の安心と快適な暮らしに多大な貢献をされています。



宿場まつり・ふれあいまつり・みなくさまつりに参加しました！

令和7年度も草津市で開催された様々なイベントに参加し、ごみの分別や減量に関する啓発活動を行いました。

4月27日には「草津宿場まつり」に、10月～11月にかけては「地域のふれあいまつり」に参加しました。また、11月16日にはJR南草津駅西口周辺で開催された「みなくさまつり」に初めて参加しました。

「みなくさまつり」は雲一つない晴天に恵まれ、とても多くの来場者にごみ問題に関するクイズに挑戦していただきました。大人もこどもも楽しんで取り組んでいただき、ごみの分別や減量に関する理解を深めていただきました。

これからも数多くのイベントに参加し、ごみ問題に関する啓発活動を進めていきたいと思います。



ごみ問題を考える草津市民会議では、
会員を募集中！
(市ホームページ)



令和7年
11月29日

ごみ問題を考えるセミナー2025を振り返って

本年でセミナー形式の学習会は4回目となり、今回は「循環経済入門」の著書もある立命館大学の笹尾先生と、プラごみ研究会「Rキッズ」のみなさまにも登壇していただきました。



◀ 市ホームページ

笹尾先生の講演では、ごみ問題の現状を把握することから始まり、続いて循環経済のうち主に、「3R」についてやさしく紐解いていただくことで、最終的には、消費者ができることとできないことが整理され、今できることが何なのかを明確にしていただきました。

循環経済の基本は、従来からの、大量生産・消費・廃棄からの脱却と再利用・再生・シェアの推奨に他ならないことが指摘され、以下の3点を励行することを学びました。すなわち、①ごみの減量、②分別励行でリユース、リサイクルに回す、③他の人達とモノ・サービスをシェアすることです。

セミナーの最後にプラごみ研究会「Rキッズ」から活動報告の発表をいただきました。マイ容器の持参や量り売り可能な店の紹介もあり、日常的な買い物においても、サーキュラーエコノミーの実践につながる具体例が示されました。



「Rキッズ」とは、しがローカルSDGs研究会(SL2)が企画運営する小学生対象のプラごみ研究会で、毎年夏休みに参加者を募集して活動しています。



◀ マイ容器でいこう！-プラごみ研究会「Rキッズ」
しがローカルSDGs研究会ホームページ

笹尾先生とプラごみ研究会「Rキッズ」とのQ&A

Rキッズ

Q1 リサイクルについて、進んでいるものと遅れているものは何ですか？

笹尾先生

A 進んでいるものは、アルミ缶・スチール缶・自動車・古紙・ペットボトル（世界トップレベル）で、遅れているものは、大半が燃やされているプラスチック製品・衣類・化粧品容器などです。

Rキッズ

Q2 関心のある人々だけが、どうしたらごみを減らすことができるのか
学んでいるのではありませんか？
学校で環境問題について学ぶ授業を取り入れられないのですか？

笹尾先生

A 関心の低い人を巻き込むことは大切ですし、学校での環境教育も重要です。環境学習やSDGsの広がりから、最近は若い世代の方が高齢世代よりも関心が高いと思われます。行動変容をもたらす経済的なインセンティブやナッジ（きっかけづくり）も有効と思われます。

Rキッズ

Q3 プラスチックのような石油由来のものではなく、自然に還る代替品はあるのか、もしあるとてもプラスチックよりコストがかかるのですか？

笹尾先生

A 生分解性プラスチックが開発されていますが、コストが高く、期待どおりに分解しないものもあるのが現状です。

使い捨ての包装代、払い続ける？

Rキッズ
しらべ



ごみ分別動画

分別方法やコツについて解説！
(市ホームページ)



食品ロスを減らそう！



◀ 食品ロスを減らすためにできることは？
出典：環境省 食品ロスポータルサイト



◀ 市ホームページ



食品ロスとは、まだ食べられるのに捨てられてしまう食べものです。
食品ロス削減に効果的な方法を紹介します。



1 飲食店で食事するとき

食べきれると思う量を注文。残ってしまった場合には持ち帰ることができるかどうかを確認。宴会では「3010運動+」を実践。(乾杯後30分間、お開き前10分間は、自分の席でしっかり食べる。)

2 買い物のとき



買い物の前に冷蔵庫や食品庫の中の食材を確認。必要な分だけ買う。店の陳列棚では手前取り。



3 調理のとき

食べきれる分だけ作る。食材が余ったときには使い切りレシピを検索。



4 保存のとき

冷凍するなど傷みにくい保存方法を検討。保存していた食べ残しを忘れてしまわないように、冷蔵庫の中の配置方法を工夫。

5 食べきれないとき (未開封のもの)

フードドライブなどへの寄付やお裾分け。草津市社会福祉協議会を始め、公共団体や事業者でもフードドライブ事業を実施。

食品ロス削減「3つのない」 買いすぎない・作りすぎない・食べ残さない

段ボールコンポスト堆肥で野菜作りに挑戦しています

今年の夏、日本では近年にない猛暑で、農家のみなさまも苦労されていた中、私たち段ボールコンポスト部会員は、庭の一画でプランター等でのミニ野菜作りに挑戦しました。炎天下の庭での栽培は難しいものでしたが、段ボールコンポスト堆肥を使って無事収穫できた野菜の一部を紹介します。



◀ 市ホームページ



きゅうり、なす、トマト、
ししとう、こまつな



チンゲンサイ



こまつな



じゃがいも
(赤・白)



にら

市内散在性ごみ一斉清掃

令和7年度も各町内や各種団体のご協力のもと、11月30日を中心に市内散在性ごみ一斉清掃を実施しました。道路や河川等の公共の場所に廃棄されたごみの回収をしていただき、数多くのペットボトルや空き缶、びん、中には子どもの帽子や野球ボールの報告もありました。

市内14か所の小学校に設けた回収拠点にごみが集められ、ごみの総重量は約3,680kgで参加者は約10,600人でした。ご協力ありがとうございました。

不法投棄のないきれいなまちになるよう、
日常的に気をつけていきましょう。



ごみ分別アプリ

収集日をアラームで知らせるなどお役立ち情報が満載!
(市ホームページ)



資源回収活動紹介

老上学区・南笠町周辺

町内会とこども会が協同して資源回収活動を実施されています。

回収品目 紙類（段ボール、新聞、雑誌）、繊維類、アルミ缶

回収方法 31か所あるごみ集積所を利用

回収日 毎月第一金曜日（ごみカレンダー上、市のごみ収集がない日）

参加世帯数 約600世帯



市からの奨励金や業者から得た売却益は、こども会や町内会での行事に活用しています。

矢倉学区・大塚団地町内会

月1回こども会で実施されていた廃品回収が廃止されて以降、有志による「資源回収たんぽぽの会」（構成員35名）を発足し、現在までの25年間、地道な活動を展開されています。

回収品目 紙類（段ボール、新聞、雑誌）、繊維類、アルミ缶

回収方法 町内のごみ集積所6か所、資源ごみ倉庫を利用

回収日 町内集積所…第2・第4土曜日、資源ごみ倉庫…日・水曜日

参加世帯数 約390世帯



市からの奨励金や業者から得た売却益は、町内集会所建設費の一部として寄付したり、防災倉庫の設置、公園のナイター設備・消防ポンプなど備品の購入にあてられ、住民に還元されています。

市のごみ収集よりも頻繁に資源ごみが搬入でき、家庭内にごみが長期間滞ることも少なくなり、分別意識が高まっています。さらに、住民間のコミュニケーションの活性化にもつながっています。

草津市資源回収活動団体大募集!

草津市では、ごみ問題に対する意識を高め、ごみの減量と再資源化を進める

ために、各種団体のみなさまが実施される資源回収活動（資源として再生が可能な廃棄物の回収=いわゆる廃品回収）に奨励金を交付しています。

[市ホームページ](#)



松原中学校

服プロ実行委員会の取組紹介

ESDとは、「持続可能な開発のための教育」の略で、SDGsの実現に向けた教育です。「スクールESDくさつプロジェクト」では、様々な地域課題を体験的な学びを通して、その解決にこどもたちが主体的にかかわり、地域社会の一員としての意識と行動力を身につけることをめざしています。

松原中学校はESDの一環で、3年前から不要なこども服を回収して途上国に届ける「届けよう、服のチカラプロジェクト」に参加しています。

回収品目 ベビー服、キッズ服

回収方法 こども園や小・中学校、まちづくりセンターの計8か所を利用

回収期間 令和7年9月30日(火)～令和7年10月30日(木)

実施者 松原中学校 “届けよう、服のチカラプロジェクト”
実行委員（有志の中学生16名）

令和7年度回収実績

令和7年度の回収は
終了しました

4,620着 (ベビー服11箱分、半袖7箱分、長袖15箱分の合計33箱分)



回収した服



梱包している様子



出荷準備の様子



実行委員のみなさま

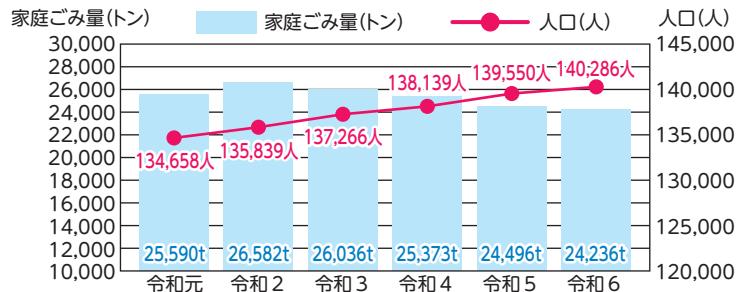
2年生のときからこの取組を始めた生徒のみなさまに参加したきっかけをお聞きすると、困っている人を支えるため、役に立ちたいとの思いから挑戦し始めたそうです。届けた住民の方の写真を見て、感動したとの感想を伺いました。

草津市のごみの現状

草津市は、人口が増加している一方で、家庭から出るごみの量は近年減少傾向にあります。引き続きごみの減量にご協力ください。

3Rの取組

- ★ごみを出さない工夫をしよう
- ★繰り返し使おう
- ★しっかり分別をしよう



高齢者等ごみ出し支援事業を実施しています

当市では、ごみ出しが困難な高齢者または障害者等の世帯に、ごみ出し支援を行っております。この制度を利用できる方は、既存の福祉サービスによるごみ出し支援や家族等の支援が受けられず、同居者全員が下記のいずれかに該当する世帯等です。

市ホームページ

- 要介護2以上の認定を受けている方
- 身体障害者手帳の交付を受けている方
- 療育手帳の交付を受けている方
- 精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方 等



※当支援に関する相談は、人とくらしのサポートセンター（077-561-6865）までお気軽にお問い合わせください！



コラム

南笠東学区

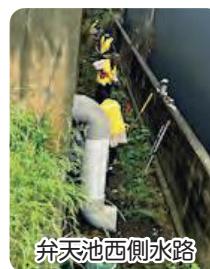
イエローベストの若者と駆ける

今年の夏の前から、気になっていた狼川河川公園からパナソニック前に抜ける通行路周辺の草刈りを始めた。私ひとりではしんどいので、立命館大学の留学生グループに声をかけて地域の環境美化に協力をしてほしい旨を伝えたところ、快い返事がかえってきた。「チームMugi」の活動はこうして始まった。



留学生は学業優先で時間に余裕がないので、朝の7時から9時で都合の良い日を作業日とした。いきなり現場に入ることはためらいがあるので、まずは私の家の近くで草刈機の練習をした。手入れをしていないエンジン式の草刈機をかけるのは難しい。経験者から「もっと良い機械を買った方が良い」とアドバイスをいただくが、チーム5名分の台数を考えると手が届かない。結局、怪我のない道具として充電バッテリー式の草刈機に落ち着いた。「楽しんでやることが1番」の発想だ。このやり方で、いろんな用具が揃ってきた。秋口になって、要領も心得てきたので、「チームMugi」は弁天池の周回歩道の清掃に加わった。

ここは、以前から建物の境界の溝に空き缶が捨てられやすく、今年、市から交付された「ごみのポイ捨て禁止の看板」を設置した場所である。ここには農業水路が国道1号の下をくぐっているので、詰まった場合は大きな損害につながる可能性がある。急な坂の草刈は「チームMugi」の軽い草刈機が役立った。そして、回収した空き缶を持ち帰り、水洗いをしてごみ回収の指定日にごみステーションに運んだ。



その後も、「チームMugi」は各地へ清掃に出かける。私は道具を運ぶのに軽トラックを運転するが、彼らは夏に買った黄色いメッシュのベストを着用して自転車を連ねて移動する。寒くなった今、冬のジャンパーの上からベストを羽織った後ろ姿を眺めると、随分とたくましくなったと感じる。 Y.K 75歳